

令和7年国語科評価規準 第6学年 6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
4月	つないで、つないで、一つのお話 1時間（話・聞①） ◎自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)エ） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■グループで一人1文ずつつないで、一つのまとまった話を作る。 ☆よりよい人間関係の形成に関する題材（特別活動）	1	1 扉の詩、目次、P9「国語の学びを見わたそう」を見て、学習の進め方を確かめたり、見通しをもったりする。 2 P17を読み、6年生の国語学習の目標を書く。 3 「つないで、つないで、一つのお話」の活動の目的と流れを確かめる。 4 最初と最後の1文を決め、グループで2周する間にお話が完結するように1文ずつ話をつなぐ。時間に余裕があれば、「もっと楽しもう」 5 できたお話を発表して感想を伝え合ったり、友達とお話を作ってどう感じたかを振り返ったりする。	【知・技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。（(1)ア） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめている。（A(1)エ） 【態】進んで話の内容を捉えながら相手の話を聞き、これまでの学習をいかしてお話作りに取り組もうとしている。
4月	準備 1時間（読①） ◎詩を音読することができる。（知・技(1)ケ） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ◎詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ■詩の音読を聞き合い、感じたことを伝え合う。 ☆希望と勇気、努力と強い意志に関する題材（道徳）	1	1 詩の内容や情景を思い浮かべながら音読する。 ・誰に向かって、何を呼びかけているのかを考える。 ・言葉の順序や繰り返しの表現など、詩に用いられている表現の工夫に着目する。 ・心に強く響いた言葉が、聞く人の印象に残る。 2 音読を聞き合い、互いに感じたことを伝え合う。 3 学習のまとめをする。	【知・技】 ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） ・詩を音読している。（(1)ケ） 【思・判・表】「読むこと」において、詩の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ） 【態】進んで詩を音読し、学習課題に沿って感じたことを伝え合おうとしている。
4月	伝わるかな、好きな食べ物 続けてみよう 1時間（書①） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)カ） ■文章を読み合い、紹介されている食べ物を当て合う。 ☆食生活への関心を高める題材（家庭科）	1	1 「伝わるかな、好きな食べ物」の活動の目的と流れを確かめる。 2 紹介する食べ物を決め、見た目や食感などの特徴を想起し、書く内容を考える。 3 比喩を用いるなど表現を工夫しながら、おいしさが伝わるように文章を書く。 4 文章を読み合い、何の食べ物かを当て合う。時間に余裕があれば、「もっと楽しもう」に挑戦 5 自分が書いた文章のよさや、友達が書いた文章で印象に残った表現について振り返る。 6 P24「続けてみよう」を読み、年間を通した継続的な活動に取り組む意欲をもち、ノートの書き方について学ぶ。	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。（B(1)カ） 【態】積極的に表現を工夫し、これまでの学習をいかして互いの文章を読み合おうとしている。
4月	視点や作品の構成に着目して読み、印象に残ったことを伝え合おう			
	帰り道 5時間（読⑤） ◎文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ◎登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ■物語を読み、印象に残ったことについて考えをまとめ、伝え合う。 ☆友情や信頼、相互理解や寛容に関する題材（道徳）	1 2 3 4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・P25を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもと」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「律」と「周也」の心情や関係の変化を考える。 ・P38「展開にそって比べよう」を参考に、同じ出来事や言葉に対する登場人物の捉え方や心情、考え方をまとめる。 ・二人の心情が伝わるように音読する。 ・P39「言葉に着目しよう」を参考に、複数の表現を関連づけて、天気雨の前後で二人の心情と関係がどう変わったのかを捉えよう。 3 「律」と「周也」の人物像を考え、交流する。 ・さまざまな視点から二人の人物像を考える。 ・「1」と「2」に分けて書かれていることの効果を考え、友達と話し合う。 4 特に印象に残ったことについて考えをまとめる。 ・P39「考えをまとめるときの観点の例」を参考に、構成、内容、表現など、さまざまな観点から考えたことを伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ） ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。（C(1)イ） 【態】進んで登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉え、学習の見通しをもって印象に残ったことについて考えを伝え合おうとしている。
4月	公共図書館を活用しよう 1時間（知・技①） ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに関与することができる。（知・技(3)オ） ☆公共図書館の資料やサービスの利用	1	1 公共図書館を利用した経験を想起する。 ・学校図書館との違いを考える。 2 公共図書館で利用できる資料やサービスを確認、利用してみたいものを出し合う。 3 P42「図書館以外の施設も活用しよう」を読み、図書館以外の施設にどんなものがあるかを知	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに関与している。（(3)オ） 【態】進んで公共図書館の役割や特徴について知り、学習課題に沿って利用してみたいものや本の記録の1

令和7年国語科評価規準 第6学年 6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	☆公共図書館の資料（ブック・雑誌・CD）の利用（図書館活用、社会） ☆公共図書館のウェブサイトや電子図書館の利用（ICT活用）		4 P43の記録カードの例を参考に、読んだ本や調べたことの記録のしかたを知る。 ・実際に、学校図書館や公共図書館で調べたことを記録カードに書く経験をするときよい。	利用している本や調べたことの記録のしかたについて考えようとしている。
4月	漢字の形と音・意味 2時間（知・技②） ◎漢字の由来、特質などについて理解することができる。（知・技(3)ウ） ○第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	1 2	1 同じ部分をもつ漢字には、音も共通する場合があることを理解する。 ・P44の設問1に取り組む。 2 同じ部分をもつ漢字には、意味のうでつながりがある場合があることを理解する。 ・P45の設問2に取り組む。 3 学習のまとめをする。 ・形（部分）、音、意味の關係に着目して、漢字を読んだり書いたりしようとする意識をもつ。	【知・技】 ・第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） ・漢字の由来、特質などについて理解している。（(3)ウ） 【態】進んで漢字の由来、特質などについて理解し、これまでの学習をいかして漢字を文や文章の中で使おうとしている。
4月	春のいぶき 1時間（書①） ◎語句と語句との關係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■身の回りで感じた「春」を、俳句や短歌に表す。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳）	1	1 春のイメージを広げる。 ・身の回りで感じた「春」を交流する。 ・教科書に示されている二十四節気を確認したり、俳句、短歌を声に出して読み、おおまかな意味を捉えたりする。 2 自分の地域の今の「春」を、俳句や短歌に表す。 ・俳句や短歌の形式や決まりを確認する。 ・自分が感じた、どのような「春」を伝えたいか。 3 書いた作品をグループで読み合う。 ・春の感じ方、言葉の選び方や使い方、語感など、内容と表現の工夫に着目して感想を伝え合う。	【知・技】語句と語句との關係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） 【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、これまでの学習をいかして俳句や短歌を作ろうとしている。
5月	インタビューをして、自分の考えと比べながら聞こう 聞いて、考えを深めよう 6時間（話・聞⑥） ◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ◎話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)エ） ○日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。（知・技(1)キ） ■インタビューをする。 ☆よりよい学校生活、集団生活の充実に関する題材（道徳） ☆礼儀や敬語が円滑な人とのつながりをつくることを実感する活動（道徳） ☆インタビューを通して必要な情報を集め、自分の考えを深める教材（社会、総合的な学習の時間） ☆ICレコーダーなどの機器によるインタビューの録音（ICT活用）	1 2 3～4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・学校のよいところや学校にどんな人が関わっているかを想起する。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 インタビューの相手を決め、知りたいことを明らかにする。 ・P49「インタビューの相手を考えるときは」を参考に、学校のよいところとの関連を考えながら、インタビューの相手を決める。 ・P49「インタビューの準備をするときは」を参考に、質問や自分の考えをまとめ、インタビューの準備をする。 3 インタビューをする。 ・P50-51の桜井さんのインタビューを読んだり、二次元コードから動画「インタビューの様子」を視聴したりして、相手の思いや考えを引き出すために気をつけたことを、友達と出し合う。 ・P50「インタビューをするときは」を参考に、相手の思いや考えを引き出すために気をつけたことを、友達と出し合う。 4 話を聞いて考えたことを、伝え合う。 ・考えが深まったり、変化したりした点を明確にする。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） ・日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。（(1)キ） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。（A(1)エ） 【態】進んで話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、学習課題に沿ってインタビューをしようとしている。
5月	漢字の広場① 1時間（書①） ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■絵の中の出来事を伝える記事を書く。	1	1 教科書の絵を見て、町のあちこちで起こっている出来事を想像する。 2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく用いて、それぞれの出来事を町の人に伝える記事を書く。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ） 【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして記事を書こうとしている。
5月 ～ 6月	主張と事例の關係をとらえ、自分の考えを伝え合おう 笑うから楽しい 時計の時間と心の時間 【情報】主張と事例 7時間（知・技①、読⑥） ◎原因と結果および権利と義務の關係	1～2	1 学習の見通しをもつ。 ・P53を見て、心の動きが体や時間とどのように関わっているかを考える。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。	【知・技】 ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ）

令和7年国語科評価規準 第6学年 6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。（思・判・表C(1)ア） ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ■主張を述べた文章を読み、自分の考えを伝え合う。 ☆物事を科学的に考えるよさに目を向ける題材（理科）	3 4 5 6 7	2 「笑うから楽しい」を、筆者の考えと事例の関係に着目しながら読む。 ・どの段落に筆者の考えと、その基となる事例が書かれているかを確かめる。 ・事例を挙げることの効果について考える。 ・この文章に対する自分の考えを友達と話す。 3 「時計の時間と心の時間」を読む。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習のめあてを確かめる。 4 文章全体の構成を捉える。 ・「時計の時間」「心の時間」の定義を確かめる。 5 筆者が複数の事例を挙げた意図を話し合う。 ・それぞれの事例について、自分の経験を振り返ったり、実験結果を詳しく読み取ったりする。 6 P62-63「話し合いの例」を参考に、複数の事例の主張に対する自分の考えをまとめる。 ・共感・納得したり、疑問に思ったりしたことを、自分の経験を踏まえてまとめる。 7 考えをグループで伝え合う。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（C(1)ア） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ） 【態】進んで事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。
6月	文の組み立て 2時間（知・技②） ◎文の中での語句の係り方や語順について理解することができる。（知・技(1)カ）	1 2	1 言葉の順序について理解する。 ・「問いをもとう」を基に、日本語の文の語順の特徴について、友達と考えを出し合う。 2 主語と述語の関係について理解する。 ・一つの文の中に主語と述語の関係が二つ以上出てくる場合があることを知る。 ・主語と述語の関係が複数ある場合には、短い文に分けると読みやすくなることを確かめる。 3 P67の設問1・2に取り組む。 4 学習のまとめをする。 ・「いかそう」を読み、文の組み立て方について、今後いかしたい場面を考える。	【知・技】文の中での語句の係り方や語順について理解している。（(1)カ） 【態】進んで文の中での語句の係り方や語順について理解し、これまでの学習をいかして設問に取り組もうとしている。
6月	表現を工夫して短歌を作り、読み合おう たのしみは 3時間（書③） ◎短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけることができる。（思・判・表B(1)カ） ○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○語句の係り方や語順、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■日常の中の楽しみや喜びを短歌に表す。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳）	1 2 3	1 学習の見直しをもつ。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 短歌に表したい場面を決める。 ・P69の短歌二首を読み、内容を理解する。 ・P69「題材を決めるときは」を参考に、生活の中にある「たのしみ」を探し、そのときの様子や気持ちを細かく思い出す。 3 短歌を作る。 ・短歌が5・7・5・7・7の31音でできていることを確かめ、「たのしみは」で始まる短歌の形にする。 ・比喻を用いたり、言葉の順序を変えたりし、表現を工夫する。 4 短歌を読み合い、感想を伝え合う。 ・P70「感想を伝え合うときは」を参考に、「たのしみ」を感じた題材や場面の切り取り方、それを伝える言葉の使い方などで工夫している点について交流する。 5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） ・語句の係り方や語順、話や文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） ・「書くこと」において、短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけている。（B(1)カ） 【態】学習の見直しをもって短歌を作り、積極的に短歌に対する感想や意見を伝え合おうとしている。
6月	天地の文 1時間（知・技①） ○近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ○古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。（知・技	1	1 教材文を音読する。 ・リード文を読んで、「天地の文」の成り立ちやおおまかな内容を理解する。 ・二次元コードの音声「天地の文」を参考に、文語調のリズムや響きに親しみ、音読する。 2 大意を参考に内容を捉え、繰り返し音読する。 ・時間や週日など、暮らしの基本となる決め事が書かれていることを確かめる。	【知・技】 ・近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア） ・古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。（(3)イ） 【態】進んで言葉の響きやリズムに

6 年

4

令和7年国語科評価規準 第6学年 6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
7月	本は友達 私と本 星空を届けたい 5時間（読⑤） ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ■テーマに沿って読んだ本を紹介するブックトークを行う。 ☆ブックトークに向けた読書（図書館活用） ☆共生社会に目を向ける題材（道徳）	1 2 3 4 5	1 学習の見直しをもつ。 ・リード文を読み、自分の読書生活を振り返る。 ・「見直しをもとう」を基に、学習計画を立てる。 2 本を読むことをきっかけに、どのように知識や考えを広げたり深めたりしているかを話し合う。 3 印象深い本について、友達と話す。 ・これまでに読んだ中で、心に残っている本を想起し、その本がもつテーマについて、友達と話し合う。 4 テーマに着目して、複数の本を読む。 ・P87「テーマと本の例」やP280「本の世界を広げよう」を参考に、一つのテーマに関する複数の本について、並行読書を始めてもよい。 5 「星空を届けたい」を読み、ブックトークの手順を確かめる。 ・「星空を届けたい」を読んで、印象に残ったことを交流する。 ・P88「ブックトークの例」を読み、「初め」「中」「終わり」の構成で、テーマに沿って本を紹介することを理解する。 6 ブックトークをする。 7 学習を振り返る。 ・「読書に親しむために」で本の読み方を押さえる。	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。（(3)オ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ） ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ） 【態】進んで読書が自分の考えを広げることに役立つことに気づき、これまでの学習をいかしてブックトークをしようとしている。
9月	せんねん まんねん 名づけられた葉 2時間（読②） ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ◎詩を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ■詩を読み、考えたことを伝え合う。 ☆個性の尊重、努力と強い意志に関する題材（道徳）	1 2	1 二つの詩を音読する。 2 表現の工夫に着目して、詩の内容を捉える。 3 二つの詩の題名が表していることや、描かれている思いについて、話し合う。 ・繰り返しの表現や比喩など、表現の工夫に着目する。	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ） 【態】積極的に表現の工夫に気づき、これまでの学習をいかして考えたことを伝え合おうとしている。
9月	いちばん大事なものは 2時間（話・聞②） ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。（思・判・表A(1)オ） ■メンバーを替えながら、グループで考えを尋ね合う。 ☆よりよい人間関係の形成に関する題材（特別活動） ☆相互理解、寛容に関する題材（道徳）	1 2	1 これからの生活で、どのようなものや考え方を大事にしていきたいか、自分の考えをノートに書く。 2 3人一組のグループをつくり、考えを伝え合う。 ・互いの考えがよく分かるように、理由や、これまでの経験などを尋ね合う。 ・メンバーを二度入れ替え、同様に考えを聞き合ったり、前のグループで出た話題などを共有したりする。 ・最後は、初めのグループに戻って、交流する。 3 最終的な考えをまとめ、交流する。 ・変わったり深まったりした自分の考えを、ノートに書く。 ・書いたものを見せ合い、互いの「いちばん大事なものは」や、対話する意義について交流する。	【知・技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。（A(1)オ） 【態】積極的に考えを広げ、学習課題に沿って考えを尋ね合おうとしている。
9月	インターネットでニュースを読もう 3時間（読③） ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができる。（思・判・表C(1)ウ） ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ■ニュースサイトと新聞を比較して読む。 ☆インターネットによる情報収集（ICT活用）	1 2 3	1 ニュースサイトの読み方や活用のしかたについて学習することを理解する。 ・P105脚注を基に、「ニュースサイト」とは何かを確認する。 2 ニュースサイトのトップページの特徴を知る。 ・P105「トップページの例」を参考に、トップページの特徴を考える。 ・ニュースサイトを利用した経験を話し合う。 3 ニュースサイトと新聞の記事を比べる。 ・P106の恐竜化石に関するニュースを基に、ニュースサイトと新聞の相違点を考える。 ・P107の吹き出しとニュースサイトの記事を照らし合わせ、情報の正しい読み取り方について考える。 ・さらに情報を得たいときの検索のしかたについて、友達と話し合う。 4 実際にニュースサイトにアクセスし、興味のあるニュースを読んだり、さらに知りたいことを検索したりする。 5 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけている。（C(1)ウ） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ） 【態】進んでニュースサイトの特徴を理解し、これまでの学習をいかしてニュースサイトと新聞を比較して読もうとしている。
9月	文章を推敲しよう	1	1 P108とP308を読み、「推敲」について知る。	【知・技】文の中での語句の係り方

令和7年国語科評価規準 第6学年 6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	2時間（書②） ◎文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ○文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解することができる。（知・技(1)カ） ■文章を推敲する。 ☆持続可能な社会に関する題材（社会）	2	2 P108の設問（▼）に取り組む。 ・P108「書きこみの例」を参考に、文章に赤字で書き込む。 3 P109の設問（▼）に取り組む。 ・桜井さんの直した文章と、自分が赤字で書き込んだ点とを比べる。 ・気づいたことを、グループで話し合う。 4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確かめる。	や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解している。（(1)カ） 【思・判・表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ） 【態】進んで文章全体の構成や書き表し方などに着目し、学習課題に沿って文章を推敲しようとしている。
9月	漢字の広場② 1時間（書①） ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■絵の中の人々の行動を説明する文章を書く。	1	1 教科書の絵を見て、遊園地での人々の行動を想像する。 2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく用いて、遊園地での人々の行動を、文章に書く。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ） 【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
9月 ～ 10月	作品の世界を想像しながら読み、考えたことを伝え合う やまなし 【資料】イーハトーヴの夢 8時間（読⑧） ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ◎物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ■物語と資料を重ねて読み、作品世界について考えたことを書いて、伝え合う。 ☆生命や自然との関わりに関する題材（道徳） ☆キャリア形成と自己実現に目を向ける題材（特別活動）	1 2～3 4～5 6 7 8	1 学習の見通しをもつ。 ・P111を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「やまなし」の作品世界を捉える。 ・二枚の青い幻灯に描かれた谷川の風景が分かる言葉や文を探す。 ・資料「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について感想を伝え合う。 3 「やまなし」の作品世界を読み深める。 ・作者の独特な表現に着目し、心を引かれる表現から情景を豊かに想像する。 ・かにかの様子、水や光の様子、上から来たものについて、「五月」と「十二月」の場面が使われている言葉に着目して対比する。 ・作者がなぜ「十二月」にしか出てこない「やまなし」を題名にしたのかを考える。 4 作者が作品に込めた思いを考える。 ・P133「考えをまとめるとき」を参考に、自分の考えを文章にまとめる。 5 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 ・友達のと違うところや、「いいな。」と思ったところを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつとともに、P266「物語の世界を作る表現」で表現や構成に着目して本を読むことへの意欲を高める。	【知・技】 ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ） ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりして、学習の見通しをもって作品世界について考えたことを書き、伝え合おうとしている。 【態】粘り強く物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりし、学習の見通しをもって作品世界について考えたことを書き、伝え合おうとしている。
10月	漢字の広場③ 1時間（書①） ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■絵を基に、冒険物語を書く。	1	1 教科書の絵を見て、絵の中の魔法使いを主人公にした冒険物語のストーリーを考える。 2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく用いて、魔法使いが冒険する物語を書く。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ） 【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして物語を書こうとしている。
10月	熟語の成り立ち 2時間（知・技②） ◎語句の構成や変化について理解することができる。（知・技(1)オ） ○第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	1 2	1 漢字二字の熟語の成り立ちを理解する。 ・漢字二字の熟語には、4通りの成り立ちがあることを理解する。 ・P136の設問1に取り組む。 2 漢字三字の熟語の成り立ちを理解する。 ・漢字三字の熟語には、3通りの成り立ちがあることを理解する。 3 漢字四字以上の熟語の成り立ちを理解する。 ・普通は、幾つかの語の組み合わせでできていることを確認する。	【知・技】 ・第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） ・語句の構成や変化について理解している。（(1)オ） 【態】進んで熟語の構成についての理解を深め、学習課題に沿って熟語を探したり組み合わせを考えたりしようとしている。

令和7年国語科評価規準 第6学年 6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
			4 P137の設問2に取り組む。 ・新聞や本などから、漢字三字以上の熟語を探してもよい。 5 学習のまとめをする。	
10月	秋の深まり 1時間（書①） ◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■身の回りで感じた「秋」を、俳句や短歌に表す。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳）	1	1 秋のイメージを広げる。 ・身の回りで感じた「秋」を交流する。 ・教科書に示されている二十四節気を確認したり、俳句、短歌を声に出して読み、おおまかな意味を捉えたりする。 2 自分の地域の今の「秋」を、俳句や短歌に表す。 ・俳句や短歌の形式や決まりを確認する。 ・自分が感じた、どのような「秋」を伝えたいか。 3 書いた作品をグループで読み合う。 ・秋の感じ方、言葉の選び方や使い方、語感など、内容と表現の工夫に着目して感想を伝え合う。	【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） 【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、これまでの学習をいかして俳句や短歌を作ろうとしている。
10月	目的や条件に応じて話し合おう みんなで楽しく過ごすために 【コラム】伝えにくいことを伝える 6時間（話・聞⑥） ◎思考に関わる語句の量を増し、話の中で使うことができる。（知・技(1)オ） ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。（思・判・表A(1)オ） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。（思・判・表A(1)ア） ■目的や条件に応じて話し合う。 ☆学校における多様な集団の生活の向上に関する題材（特別活動） ☆親切や思いやり、相互理解や寛容に関する題材（道徳） ☆探究的な課題の解決に関する活動（総合的な学習の時間）	1 2 3 4～5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・これまでの学校や地域の行事を想起する。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 議題を確認する。 ・活動の目的や条件をはっきりさせ、話し合いの見通しをもつ。 3 自分の考えを明確にする。 ・P142「考えを書き出した例」を参考に、主張、理由、根拠に分けて、考えを整理する。 4 グループの中で役割を決め、進行計画を立てる。 ・司会や記録係などの役割を決める。 ・P142「進め方の例」を参考に、進行計画を立てる。 5 話し合いで気をつけることを考える。 ・P143「考えを広げる話し合いのときは」やP144「考えをまとめる話し合いのときは」、P143の二次元コードから視聴できる動画「話し合いの様子」を参考に、どのようなことに気をつけて話し合うとよいかを考える。 ・P146「伝えにくいことを伝える」を参考に、話し合いでの発言のしかたについて考える。 6 進行計画に沿って、話し合う。 ・P143「話し合うときに意識すること」を参考に、話し合いの目的や、それぞれの考えの共通点・相違点、利点・問題点などを明確にする。 ・進行計画に沿って、考えを広げる話し合いと、考えをまとめる話し合いを区別しながら活動を進める。 ・話し合いの過程を共有できるように、記録係を中心に記録を取り、整理しながら進める。 ・話し合いで決まった仮の結論を実際に試し、問題点や改善点が生じた場合には、考えを広げる話し合いとまとめる話し合いを繰り返す。 7 話し合ったことをクラスで共有し、感想を伝え合う。 ・話し合いの結果だけでなく、話し合いのしかたのよかった点も伝え合う。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っている。（(1)オ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討している。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。（A(1)オ） 【態】粘り強く考えを広げたりまとめたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
10月	話し言葉と書き言葉 1時間（知・技①） ◎話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。（知・技(1)イ）	1	1 話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。 ・「問いをもとう」を基に、話し言葉と書き言葉の違いについて考える。 ・P148の二次元コードから、話し言葉の例を音声で聞いてもよい。 ・P148-149「話し言葉」、P149「書き言葉」を読み、話し言葉と書き言葉、それぞれの特徴や気をつけるべき点を整理する。	【知・技】話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。（(1)イ） 【態】進んで話し言葉と書き言葉との違いに気づき、これまでの学習をいかして設問に取り組もうとしている。

令和7年国語科評価規準 第6学年 6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
			2 P149の設問1に取り組む。 - 好きな教科やスポーツなど、身近なテーマで友達に短いインタビューをする。 - 聞き取ったことを文章に書いて見せ合い、話し言葉と書き言葉の違いを確かめる。 3 学習のまとめをする。 「いかそう」を読み、話し言葉と書き言葉について、今後いかしたい場面を考える。	
11月	古典芸能の世界 狂言「柿山伏」を楽しもう 2時間（知・技②） ◎古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。（知・技(3)イ） ○親しみやすい古典芸能の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ■狂言を音読したり、演じたりする。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社	1 2	1 五つの古典芸能について知る。 - 紹介されている古典芸能について、知っていることを発表する。 - それぞれの特徴を解説した文章を読み、気づいたことや見てみたいと思ったものを伝え合う。 - 二次元コードから視聴できる動画「まんじゅうこわい」「如千袖」をみて、興味を深めよう。 2 「柿山伏」を読んで、狂言に親しむ。 - P153-154「柿山伏」を音読したり、振りを付けて演じたり、二次元コードから視聴できる動画「柿山伏」を見たりする。 3 学習のまとめをする。 - 興味をもった古典芸能を発表したり、昔の人と自分たちの共通点について話し合ったりす	【知・技】 - 親しみやすい古典芸能の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア） - 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知っている。（(3)イ） 【態】進んで昔の人のものの見方や感じ方を知り、これまでの学習をいかして「柿山伏」を音読したり演じたりしようとしている。
11月	筆者の工夫をとらえて読み、それをいかして書く 『鳥獣戯画』を読む 発見、日本文化のみりよく 10時間（書⑤、読⑤） ◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。（思・判・表C(1)ウ） ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。（思・判・表C(1)ア） ■学校図書館などを利用し、日本文化について調べたことや、それに対する考えを文章に表す。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳） ☆日本文化についての関連読書（図書館活用） ☆我が国の美術作品の造形的なよさや美しさなどを鑑賞する活動（図画工作）	1 2 3 4 5 6 7 8～9 10	1 学習の見通しをもつ。 - P155を見て、『鳥獣戯画』や日本文化について知っていることを出し合う。 - 教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 絵と文章を照らし合わせながら読み、内容を捉える。 3 筆者のものの見方や、それを伝えるための工夫について気づいたことをまとめる。 「絵」と「絵巻物」に対する筆者の評価が分かる表現を見つける。 - P164「筆者の工夫について考えるための観点の例」を参考に、論の展開、表現の工夫、絵のしき方という点から、自分の評価を伝えるための筆者の工夫を見つける。 4 筆者の工夫の中で、特に効果的だと思った点を理由とともにまとめ、グループで報告し合う。 5 学校図書館などで、日本文化について書かれた本を読み、友達と感想を伝え合う。 - 内容だけでなく、説明のしかたや資料の使い方などにも着目する。 6 学習を振り返る。 「たいせつ」で身につけた力を押さえる。 7 「発見、日本文化のみりよく」の学習の見通しをもつ。 - 本を読んで興味をもった日本文化を、想起する。 「問いをもとう」「目標」を基に、学習のめ 8 題材を決めて、情報を集める。 - 興味をもった日本文化について調べる。 - 集めた情報は、P311「図を使って考えよう」を参考に、図や表に整理する。 9 文章の構成を考える。 - P167「文章の構成を考えたときは」を参考に、いちばん伝えたいことが効果的に伝わる構成を考える。 10 日本文化のよさを伝える文章を書く。 - P168の作例や、P169の二次元コードから見られる作例（全文）を読んで、高橋さんの文章の工夫を見つけ、自分の文章にいかす。 - P168「よさを伝える文章を書くときは」を参考に、簡単に書く部分と詳しく書く部分を明確にし、伝えたいことに合った言葉を用いた 11 書いた文章を友達と読み合う。 12 学習を振り返る。 「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 - 比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） - 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。（(3)オ） 【思・判・表】 「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（C(1)ア） 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。（C(1)ウ） 【態】粘り強く論の進め方について考えたり、書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもって日本文化のよさを伝える文章を書こうとしている。

令和7年国語科評価規準 第6学年 6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
11月 ～ 12月	カンジー博士の漢字学習の秘伝 2時間（知・技②） ◎文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くことができる。（知・技(1)ウ） ○第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ）	1 2	1 漢字の学習で困っていることや、漢字を練習する際に工夫していることなどを出し合う。 2 漢字学習の三つの秘伝について、教科書に沿って確認する。 3 P171の設問1・2・3に取り組む。	【知・技】 ・文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。（(1)ウ） ・第6学年までに配当されている漢字を読むとともに、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【態】工夫して漢字学習を行うことに進んで取り組み、これまでの学習をいかして漢字を正しく書こうとしている。
12月	漢字の広場④ 1時間（書①） ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■絵の中の出来事などを説明する文章を書く。	1	1 教科書の絵を見て、テレビ局の様子や出来事を想像する。 2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく用いて、どこで、どんなことが行われていたかなど、見学したことを家の人に分かりやすく伝える文章を書く。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ） 【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
12月	物語を読んで考えたことを、伝え合おう ぼくのブック・ウーマン 4時間（読④） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■物語を読んで考えたことを、自分の生活や読書経験と結び付けてまとめ、語り合う。 ☆本の役割や読書の意義に目を向ける題材（図書館活用） ☆翻訳作品についての関連読書（図書館活用）	1 2 3 4	1 学習の見通しをもつ。 ・P173を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 物語の設定を確かめる。 3 物語全体を通して、「カル」がどのように変化したのかを考える。 ・「カル」の視点から語られていることの効果を考える。 ・「カル」の、「ブック・ウーマン」や本に対する見方の変化が分かる表現を探す。 ・本が読めるようになったことに対する「カル」の思いが、物語全体にもつ意味を考える。 4 物語を読んで考えたことを、自分の生活や読書経験などと結び付けながらノートにまとめる。 ・P185「生活や読書経験と結び付ける観点の例」「考えをまとめる例」を参考に、考えをまとめ 5 まとめたものをグループで読み合い、考えの共通点や相違点を語り合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で、翻訳作品を読むことへの意欲を高める。	【知・技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。（(3)オ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像している。（C(1)エ） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ） 【態】進んで文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
12月	相手や目的を明確にして、すいせんする文章を書こう おすすめパンフレットを作ろう 6時間（書⑥） ◎引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)エ） ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ■推薦したいものを、パンフレットにまとめる。 ☆図書館での情報収集（図書館活用） ☆インターネットによる情報収集（ICT活用）	1 2 3	1 学習の見通しをもつ。 ・リード文を読み、元気になったり感動したりした映画や音楽、本などを想起する。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 グループで推薦したいもののテーマを決め、情報を集める。 ・P189「取り上げるものの例」を参考にテーマを決め、どんな人に推薦したいかを考える。 ・P311「図を使って考えよう」を参考に、出てきたアイデアを整理する。 3 集めた情報を基に、グループでパンフレットの構成を考える。 ・P190「パンフレットの構成を考えたときは」を参考に構成を考え、分担を決める。 4 担当するページの割り付けと、推薦する文章の構成を考える。	【知・技】 ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ） 【思・判・表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)エ） 【態】進んで引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって推薦したいものをパンフレットにまとめようとしている。

令和7年国語科評価規準 第6学年 6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
		4～5	5 推薦する文章を書く。 ・P192「すいせんする文章の例」を読み、どんな工夫があるかを友達と話し合う。 ・書き終わったら、P192「書き表し方を工夫するときは」を用いて、自分が書いた文章を確認したり、グループみんなで推敲したりする。 ・P108「文章を推敲しよう」で学習したことを振り返り、推敲する際の参考にする。 ・P191「参考にした資料を示すときは」を参考に、裏表紙を書く。 ・グループ全員の分が完成したら、1冊にまとめる。	
		6	6 読み合って、感想を伝え合う。 ・心を動かされた内容だけでなく、言葉や写真の選び方、割り付けのしかたなど、書き表し方についてもよいところを伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
12月	冬のおとずれ 1時間（書①） ◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■季節を感じる語句を使って、手紙を書く。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳）	1	1 冬のイメージを広げる。 ・身の回りで感じた「冬」を交流する。 ・教科書に示されている二十四節気を確認したり、俳句、短歌を声に出して読み、おおまかな意味を捉えたりする。 2 自分の地域の今の「冬」を、手紙に書く。 ・手紙の形式を確認する。 ・自分が感じた、どのような「冬」を伝えたいのかを考え、それが表れるような言葉を選んで書く。 3 書いた手紙をグループで読み合う。 ・冬の感じ方、言葉の選び方や使い方、語感など、内容と表現の工夫に着目して感想を伝え合う。	【知・技】語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） 【態】積極的に季節を表す語彙を豊かにし、これまでの学習をいかして手紙を書こうとしている。
1月	詩を朗読してしようかいしよう 2時間（読②） ◎詩を朗読することができる。（知・技(1)ケ） ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○詩を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ■お気に入りの詩を朗読して紹介する。 ☆詩集からお気に入りの詩を選ぶ活動（見・聞・言・動・心・体・知・意・情・行・徳）	1 2	1 三つの詩を朗読する。 ・詩を読んで感じた様子や思いが伝わるように、工夫する。 2 お気に入りの詩を朗読する。 ・これまでに読んだ詩や、詩集などから、お気に入りの詩を選ぶ。 ・選んだ詩について、どこが心に響いたのかを、表現や内容から考える。 ・お気に入りの詩を朗読し、友達に紹介する。 詩から感じたことも伝える。	【知・技】 ・詩を朗読している。（(1)ケ） ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。（(3)オ） 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ） 【態】進んで詩を朗読し、これまでの学習をいかしてお気に入りの詩を紹介しようとしている。
1月	知ってほしい、この名言 2時間（書②） ◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■名言を紹介する。 ☆本やことわざ辞典、名言集などによる情報収集（図書館活用） ☆インターネットによる情報収集（ICT活用）	1 2	1 名言だと思う言葉を集める。 ・本やテレビ、インターネットなどで集めたり、ことわざ辞典や名言集などから選んだりする。 2 集めた言葉を整理する。 ・集めた言葉を、「自分にとって大事か」「みんなに教えたか」などの点から整理する。 ・P311「図を使って考えよう」を参考にするとよい。 3 言葉を選んでカードに書き、読み合う。 ・紹介したい言葉をいくつか選び、誰の言葉か（出典）、その言葉の意味、紹介したい理由などをカードに書く。 ・カードを読み合い、友達が紹介した言葉の中で心に残ったものをノートに書く。 4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確かめる。	【知・技】情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（(2)イ） 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） 【態】進んで集めた材料を分類したり関係づけたりし、学習課題に沿って名言を紹介しようとしている。
1月	日本の文字文化 【コラム】仮名づかい	1	1 「問いをもとう」を基に、身の回りで使われている文字や、その特徴について考える。	【知・技】 ・文や文章の中で漢字と仮名を適切

令和7年国語科評価規準 第6学年 6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	2時間（知・技②） ◎文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くことができる。（知・技(1)ウ） ◎語句の由来などに関心をもち、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解することができる。（知・技(3)ウ） ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材（社会、道徳）	2	2 P200-201「日本語の表記」を読む。 ・「漢字仮名交じり文」「表意文字」「表音文字」などの言葉を知るとともに、日本語の表記の特徴を理解する。 3 P201の設問1に取り組む。 4 P201-202「仮名の由来」を読む。 ・平仮名や片仮名の成り立ちを理解する。 ・二次元コードから見られる資料「万葉仮名」を使って、周りにある言葉を万葉仮名で表してもよい。 ・P203「仮名づかい」を読み、注意が必要な言葉について考える。 5 学習のまとめをする。 ・P276「言葉の交流」と関連を図ることも考えられる。 ・「いかそう」を読み、漢字や仮名、ローマ字の使い分けに関し、今後にいかす視点をもつ。	に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書いている。（(1)ウ） ・語句の由来などに関心をもち、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。（(3)ウ） 【態】進んで仮名及び漢字の由来、特質などについて理解し、これまでの学習をいかして適切な表記を考えようとしている。
1月	漢字の広場⑤ 1時間（書①） ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■絵の中の様子を説明する文章を書く。	1	1 教科書の絵を見て、商店街の通りやお店の中の様子、人々の会話を想像する。 2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく用いて、商店街の様子を表す文章を書く。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ） 【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
1月	筆者の考えを読み取り、テーマについて考えを述べ合う 「考える」とは 6時間（読⑥） ◎文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。（知・技(1)カ） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ○思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。（知・技(1)オ） ■複数の文章を読み、考えたことを伝え合う。 ☆一人一人のキャリア形成と自己実現に関する題材（特別活動） ☆真理の探究に関する題材（道徳）	1 2 3～4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・P205を見て、「考える」とは何かを考える。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 それぞれの文章で筆者が最も伝えたいことを考える。 ・筆者が最も伝えたいことが書かれている叙述を探す。 ・それぞれの筆者が「考える」ことをどのように捉えているかを、短い文で表す。 3 筆者がどのように自分の考えを伝えようとしているか、文章の特徴を明らかにする。 ・論の展開のしかたや構成、事例に着目する。 ・P212「言葉に着目しよう」を参考に、筆者の書き方の特徴が表れている言葉や表現を見つけ 4 三つの文章を読んで考えたことをまとめる。 ・特に印象に残ったこととその理由、自分の知識や経験と比べて気づいたこと、自分の考えとの共通点や相違点などを書く。 ・「考える」ということに対する、自分の考えを書く。 5 グループで考えを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりする。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。（(1)オ） ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ） ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ） 【態】粘り強く文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
1月	使える言葉にするために 1時間（知・技①） ◎第6学年までに配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ☆各教科の学習の中で使われる言葉（社会、算数、理科）	1	1 言葉を使う場面や、使い方を理解するために、どのようなことをすればよいか、友達と話し合う。 ・言葉を覚えてよかったこと、読み方や表記が分からなかったときの対処法などについて、考 2 P216の設問（▼）に示されている言葉について、読み方や意味が分からないものがあれば、辞書で調べる。	【知・技】第6学年までに配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【態】進んで第6学年までに配当されている漢字を読み、これまでの学習をいかして、読み方や意味が分からない言葉を辞書で調べようとしている。
1月 ～ 2月	言葉について考えよう 日本語の特徴 3時間（知・技①、書②） ○語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（知・技(1)オ） ○文の中での語句の係り方や語順について理解することができる。（知・技	1	1 学習の見通しをもつ。 ・P217を読み、「問いをもとう」を基に日本語の特徴を考える。 2 同じ内容について書かれた、日本語と英語の文を比べ、気づいたことを話し合う。 ・P218の吹き出しを例に、文の組み立て（語順）、表記などに目を向けて考える。 ・英語以外の言語とも比べる。	【知・技】 ・語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） ・文の中での語句の係り方や語順について理解している。（(1)カ） 【思・判・表】「書くこと」におい

令和7年国語科評価規準 第6学年 6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	(1)カ) ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 (思・判・表B(1)ウ) ■日本語の特徴を紹介する文章を書く。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深め、尊重する態度を養う題材(社会、道徳) ☆日本語と外国語の違いに気づき、その背景にある文化に対する理解を深める題材(外国語)	2 3	3 P219の説明や「言語の特徴を考えるときは」を参考に、日本語の特徴をまとめる。 ・文の組み立てと表記に着目して、特徴を押さえる。 ・雨に關係する表現が豊富にある理由を考え、日本語の語彙の特徴を見いだす。 4 「日本語のここが面白い。」と思うところを紹介する文章を書き、友達と読み合う。 ・教科書やノートを見返して、題材の一つ選ぶ。 ・P66「文の組み立て」、P200「日本の文字文化」、P276「言葉の交流」を参考にするとよい。 ・具体例を基に、おもしろいと思ったところや理由、表現するときの留意点や活用方法などを書く	【知・技】「書くこと」について、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】進んで日本語の特徴について理解を深め、学習課題に沿って日本語の特徴を紹介する文章を書こうとしている。
2月	書き表し方を工夫して、経験と考えを伝えよう			
	大切にしたい言葉 6時間(書⑥) ◎語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 (思・判・表B(1)ウ) ■大切にしたい言葉に対する思いを書く。 ☆キャリア形成と自己実現に関する題材(特別活動)	1 2 3 4~5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・この6年間で出会った言葉を想起する。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 大切にしたい言葉を選び、関連する経験を書き出す。 ・P198「知ってほしい、この名言」で学習したことをいかに。 ・P311「図を使って考えよう」を参考に、集めた言葉を整理し、優先順位をつける。 3 書く分量を確かめ、文章構成を考える。 4 下書きをし、友達と読み合って推敲する。 ・P223「読み合って、助言するときは」を参考に、その言葉への思いがより伝わるように助言 5 書き表し方を工夫して清書する。 ・P224-225の作例を読み、工夫している点と、その工夫のよさを話し合う。 ・P224「書き表し方を考えるときは」を参考に、書き表し方を工夫する。 6 読み合って、感想を伝え合う。 ・付箋などを使って、感想を伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】積極的に自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって大切にしたい言葉に対する思いを書こうとしている。
2月	資料を使って、みりよく的なスピーチをしよう			
	今、私は、ほくは 6時間(話・聞⑥) ◎話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。(知・技(1)イ) ◎資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ○日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。(知・技(1)キ) ○話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ■自分の思いや考えを伝えるスピーチをする。 ☆キャリア形成と自己実現に関する題材(特別活動) ☆希望と勇気、努力と強い意志に関する題材(道徳) ☆プレゼンテーションソフトを使った活動(ICT活用)	1 2 3 4 5	1 学習の見通しをもつ。 ・これまでの小学校生活を想起し、今、どんなことを思うかを考える。 ・「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 スピーチの話題と内容を決める。 ・P227「スピーチの内容を考えるときは」を参考に、将来、どんな自分でありたいかそう考えるようになったきっかけや、そのときに感じたことを書き出し、整理する。 3 構成を考えて、スピーチメモを作る。 ・P227「岩木さんのスピーチメモ」を参考に、「初め」「中」「終わり」の構成で、大体的内容を考える。 4 発表に必要な資料を準備する。 ・どこで、どんな資料を見せると効果的かを考え、プレゼンテーションソフトなどを使って資料を作る。 ・P228「資料を作るときは」を参考に、情報量、文字や写真の大きさなどを工夫する。 5 スピーチの練習をする。 ・P229「岩木さんのスピーチ(「中」の部分)」や二次元コードから視聴できる動画「スピーチの様子」を見て、工夫を見つける。 ・練習の様子を撮影して見返すなどして、資料の示し方や話し方、言葉の選び方を工夫する。 6 スピーチの会を開く。 ・P229「スピーチをするときは」を参考に、資料の示し方や話し方などの工夫について考え	【知・技】 ・話し言葉と書き言葉との違いに気づいている。(1)イ) ・日常よく使われる敬語を理解し使い慣れている。(1)キ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) 【態】積極的に資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫し、学習の見通しをもって自分の思いや考えを伝えるスピーチをしようとしている。

令和7年国語科評価規準 第6学年 6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
		6	7 感想を伝え合う。 ・友達のスピーチを聞いて、資料や話し方などについて、よかったところを伝える。 8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
3月	登場人物の生き方について、考えたことを話し合おう			
	海の命 6時間（読⑥） ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（思・判・表C(1)カ） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思・判・表C(1)エ） ■それぞれの人物の生き方に対する考えを話し合う。 ☆よりよく生きる喜びや生命の尊さに目を向ける題材（道徳）	1 2 3～4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・P231を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読んで、「問いをもとう」「目標」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 物語の構成と内容を確認める。 ・場面や出来事、「太一」と他の登場人物との関係を捉える。 3 周囲の人物との関わりが、「太一」の生き方や考え方にどのような影響を与えたのかを読み深める。 ・P245「選んで読み深めよう」から観点を一つ選び、選んだ観点を基に、周囲の人物の行動や会話に着目し、「太一」がそれをどのように受け止めたかを考える。 ・着目した点が同じ人や違う人と考えを伝え合い、考えを深める。 ・「太一」の考える「本当の一人前の漁師」とは、どんな漁師かを想像する。 ・「太一」が「瀬の主」を打たなかった理由を考える。 4 自分の考えをまとめる。 ・「海の命」とは何かを考え、まとめる。 ・それぞれの人物の生き方と、それに対する自分の考えをまとめる。 5 考えたことをグループで伝え合う。 ・P309「言葉の宝箱」を活用するとよい。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ） ・「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ） 【態】積極的に文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、学習の見通しをもってそれぞれの人物の生き方に対する考えを話し合おうとしている。
3月	漢字の広場⑥ 1時間（書①） ◎第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)オ） ■絵の中のさまざまな場面の様子を想像して、文章を書く。	1	1 教科書の絵を見て、いつ、どこで、どんなことがあったのか、6年間の学校生活のさまざまな場面の様子を想像する。 2 提示された言葉を使い、5年生までに習った漢字を正しく用いて、いつ、どこで、どんなことがあったのかを伝える文章を書く。	【知・技】第5学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（B(1)オ） 【態】積極的に第5学年までに配当されている漢字を使い、これまでの学習をいかして文章を書こうとしている。
3月	卒業するみなさんへ			
	中学校へつなげよう 生きる 人間は他の生物と何がちがうのか 4時間（書①、読③） ○比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知・技(1)ク） ○詩を朗読することができる。（知・技(1)ケ） ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。	1 2 3	1 学習の見通しをもつ。 ・P248-249を見て、6年間の国語の学習で取り組んできた活動を想起する。 2 6年間で身につけた力を振り返る。 ・P250「中学校へつなげよう」やP262「『たいせつ』のまとめ」を参考に、身につけた言葉の力を振り返る。 ・特に身についたと思う言葉の力と、その力を今後どんな場面でいかしていきたいかを、P251「い書き言葉」を参考に、身につけた言葉の力を振り返る。 3 「生きる」を読み、感じたことを友達と話し合ったり、朗読したりする。 4 「人間は他の生物と何がちがうのか」を読み、筆者の考えに対する自分の考えをまとめる。	【知・技】 ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。（(1)ク） ・詩を朗読している。（(1)ケ） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている（B(1)ア） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ） ・「読むこと」において、詩を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えをまとめている。

令和7年国語科評価規準 第6学年 6 年

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	る。(思・判・表C(1)カ) ○詩を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(思・判・表C(1)カ) ■詩と文章を読んで、感じたことを伝え合ったり、考えをまとめたりする。 ☆相互理解や寛容、公平や社会正義、よりよく生きる喜びに目を向ける題材(道徳) ☆探究的な見方・考え方を働かせ、自己の生き方を考えていく題材(総合的な学習の時間)	4	5 本単元をまとめる。 ・これからの生活や学習で、どのように言葉と向き合っていきたいかを考える。	分の考えを広げている。(C(1)カ) 【態】積極的に6年間の国語学習を振り返り、これまでの学習をいかして、詩を読んで感じたことを伝え合ったり、文章に対する自分の考えをまとめたりしようとしている。